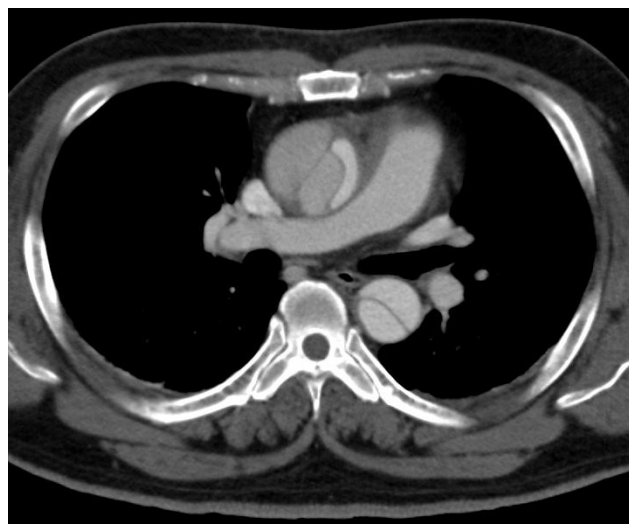


大動脈解離の造影CTです。造影剤を使って血管の中が白く写るようにして撮影します。

造影CTは、診断上、極めて有用ですが、造影剤を使用しないと撮れません。造影剤の使用にあたってはさまざまな注意点があります。

大動脈の太さなどは、造影をしなくても計測可能です。



心臓血管外科★健康講座

造影CTの撮影時やステントグラフトの治療時には、造影剤が使用されます。アレルギーのある方、喘息の方、腎機能が低下している方、糖尿病の方では注意が必要です。



造影剤の入ったシリンジ

注入のタイミングと撮影のタイミングを調整して、最適のCT画像を撮影します。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療の情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第28号は「造影剤」です。

造影剤は腕などの静脈に点滴ラインをとって投与します。投与速度、タイミング、撮影部位が重要で、対象とする臓器ごとに撮影条件が異なります。他の診療科で撮られたCTがあっても、正確な診断のために当科で再度撮影することがあるのはこのためです。

ステントグラフトでも造影剤が使用されます。動脈の枝の位置などを術中に確認しながら



ビンに入った造影剤

ステントグラフト内挿術の術中に使用されています。

ステントグラフトを留置し、留置後、漏れがないかも造影剤で確認するためです。

造影剤の使用にあたって、最も重要なのは**アレルギー**です。重症の場合、**命の危険**があります。**以前に造影剤で血圧が下がった、全身に発疹が出た**などの経験をされている方は、必ず医師、看護師、放射線技師にお申し出ください。**アレルギーの重症化は予測が困難**です。発症した場合は緊急の救命措置で対処しています。**喘息**の方も副作用が起きやすく原則的には造影しません。なお、軽症の場合は、**ステロイド剤**を予防投与して造影することもあります。

糖尿病で**ビグアナイド系糖尿病薬**（メトグルコ、メトホルミン、グリコランなど）を内服している患者さんでは造影剤との併用で**乳酸アシドーシス**という重篤な病態が起きやすいことから、該当する**糖尿病薬の休薬**が必要です。

また、造影剤は**腎機能を低下させることがあります**。造影CTの撮影**1時間半ほど前に採血**して腎機能を評価し、腎機能が低めの方には**造影せずに撮影**するか、もしくは**点滴などで少しでも腎機能低下を和らげる**ように対処しています。なお、透析患者さんの場合は、原則として造影が可能です。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第28号